

2nd period

プロフェッショナルオートノミーはどうあるべきか

～現場の歯科医師の想い～

現場の歯科医師は、自分を信頼してくれる患者の利益のために働き、その喜びを分かち合い、しばしば至らなさを反省しながらもそこから逃げずに患者さんと共に健康に寄与するのが使命です。その為には何時も勉強を怠らずその時点での最善の治療を知り、臨床家としてのリスクを勘案して患者に提示し、医療を提供するのが仕事です。そしてこれらの中には、保険から何とか支払われるものもありますが、十分な医療に対しては支払われない場合も多いのが現状です。

これら信頼に基づいた医療のためには、経済的な欠乏から診療の目が曇らされるようなことがあってはならず、同じくスタッフ・取引先技工士においてもこれらの欠乏から不適切な医療が行われることのないように指導監督する立場にあります。しかし同時に、華美になりお金の奴隷になるようでは本末転倒であり、私たちはあくまで質素を旨とするよう自戒すべきと考えます。

また、私たち臨床家が理想の医療を行うためには、患者さんが私たちを信頼してくれなければだめですが、その為には私たちは日々の診療だけではなく、私たちの同業者に何らかの至らなさがあつた場合は、改善させ、患者さんに迷惑をかけたのならば責任を持って仲介すべきです。そうして同業者のレベルを維持し、以て業界に対する信頼を得なければなりません。これは現場を知らない官僚に任せるより、自分たち自身で出来ればそちらのほうがよりよい形を作れると思います。

ですから業界のレベルの維持のためには歯科医師の粗製乱造・淘汰に任せるが如き考えは論外であることは言うまでもなく、それ以上に私たち自身、同業者の診療レベルの維持・向上のため何らかの責任を果たすことが何よりも重要であると考えます。

同時に院長のスタッフ（以下技工士含む）に対する態度としても、労働法などを守るよう指示監督し、他業種に比べて私たちの業界が引けを取ることがないようにしなければ、良質なスタッフの確保が困難になり業界全体のレベルを下げることにつながり、患者さんに対する不利益となります。

以上が自律あるいは独立自尊あるいは自尊自衛、どうしてもよいと思いますが、民主国家における専門職業団体のあるべき姿だと思います。国家や法曹界による統制はこれよりさらに外側の、さらに酷い問題などに限るのが本来のあり方だと思います。

b y 4 1 6